

- 問1 江戸時代前期の元禄文化が、それまでの時代の文化と比べて、どのような社会背景をもとに発展したか、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 参勤交代によって江戸に全国の富が集中し、江戸の庶民の間で皮肉や滑稽を好む文化が広まったこと | 2. 幕府の政治が安定し、農業や商業の発展によって上方（京都・大阪）の町人が経済力をつけたこと | 3. 遣唐使の廃止によって、日本の風土や日本人の感情に合った国風文化が貴族の間で発達したこと | 4. 応仁の乱のあとの混乱の中で、禅宗の影響を受けた簡素で深い味わいをもつ文化が武士に好まれたこと |
|--|---|--|---|
- 問2 江戸時代中期、老中の田沼意次は、それまで幕府が制限していた商人の組合を積極的に公認する政策をとりました。この組織が幕府から営業の独占権を認められる代わりに、幕府に納めた税を何といいますか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|-------|----------|
| 1. 口米 | 2. 小物成 | 3. 年貢 | 4. 運上・冥加 |
|-------|--------|-------|----------|
- 問3 江戸時代の近畿地方において、綿花の生産量が飛躍的に向上した背景にある経済的な仕組みとして、最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 遠隔地の漁村で加工された干鰯などの金肥を、都市の商人を通じて購入し投入したこと。 | 2. 幕府が全国の農民に対し、イワシを主原料とした肥料を無償で配給したこと。 | 3. 全ての農村で二毛作を禁止し、綿花の栽培だけに土地の栄養を集中させたこと。 | 4. 鎖国政策により海外から安価な綿花が流入しなくなったため、肥料を使わずに増産したこと。 |
|---|--|---|---|
- 問4 江戸時代中期以降、農村では自給自足用の作物のほかに、市場で販売して現金を得ることを目的とした綿、茶、菜種などの栽培が盛んになりました。このような農作物を何と呼びますか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|-------|
| 1. 商品作物 | 2. 工芸作物 | 3. 救荒作物 | 4. 穀物 |
|---------|---------|---------|-------|
- 問5 江戸幕府は、農民が田畑を永代にわたって売り買いすることを禁じた「田畑永代売買禁止令」や、米以外の作物を勝手に育てることを制限する「田畑勝手作の禁止」などの法令を相次いで出しました。幕府がこのような厳しい制限を農民に課した最大の目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 商工業を奨励して、商人から徴収する税金を財政の新たな柱とするため | 2. 全国の測量を正確に行い、海外との貿易で得た銀を年貢の代わりに納めさせるため | 3. 農民の没落を防ぎ、幕府の主たる収入源である年貢を安定して確保するため | 4. キリスト教の浸透を防ぐために、村の団結を強めて信仰を監視するため |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|-------------------------------------|
- 問6 平安時代末期の1180年、石橋山の戦いで敗れた源頼朝は、海路で安房国（現在の千葉県南部）へと逃れました。その後の頼朝の動向と鎌倉幕府の成立に向けた背景として、適切な説明はどれですか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 安房の有力武士である千葉氏や上総氏らの支持を得て勢力を立て直し、再び関東へ進出して鎌倉を本拠地とした。 | 2. 遣唐使の廃止を決定し、独自の国風文化を広めるために房総各地に大規模な寺院を建立して政治の安定を図った。 | 3. 房総半島の貴族勢力と結びつき、平氏を討つために京都へ直接攻め入り、朝廷から摂政に任命された。 | 4. 検地や刀狩を行うことで房総の兵農分離を徹底し、農村の支配を強固なものにすることで経済基盤を確立した。 |
|--|--|---|---|
- 問7 江戸時代、各地の商人が蝦夷地を訪れてアイヌ民族と取引を行った背景と、その経済的な影響について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 幕府はアイヌ民族を日本国民として完全に統合するため、商人を通じて日本の貨幣経済を蝦夷地の全域に浸透させようとした。 | 2. 商人は生活必需品を供給する代わりに、肥料や食料となる海産物入手し、それを日本各地の市場で販売することで全国的な物流を支えた。 | 3. アイヌ民族が清（中国）から輸入した高度な手工業製品を入手することが目的であり、それが江戸時代の産業革命のきっかけとなった。 | 4. キリスト教の布教を防ぐため、商人は宗教的な物品を一切排除した取引のみを許可され、それが結果として貿易の縮小を招いた。 |
|--|---|--|---|
- 問8 江戸時代に普及した農業技術について述べた文として正しいものを、次の語句の中から一つ選びなさい。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 踏み車が開発されたことで、脱穀の作業効率がそれまでよりも大幅に向上した。 | 2. 先端が数本の刃に分かれた備中ぐわが普及し、従来の鍬よりも土を深く耕すことが可能になった。 | 3. 千歯こきが発明されたことで、揚水機として低い場所から高い場所へ水を送ることが容易になった。 | 4. 唐箕（とうみ）が普及したことで、それまで手作業で行っていた開墾作業がすべて自動化された。 |
|---|---|--|---|
- 問9 南北戦争中の1863年、ゲティスバーグでの演説において「人民の、人民による、人民のための政治」と述べ、民主政治の理念を訴えたアメリカの大統領は誰か。 (2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|-----------|----------|
| 1. ウィルソン | 2. リンカン | 3. ルーズベルト | 4. ワシントン |
|----------|---------|-----------|----------|
- 問10 江戸時代初期の日本の対外政策において、徳川家康がとった行動の説明として正しいものはどれか。 (2017年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 豊臣秀吉による朝鮮出兵の失敗を受け、大陸との貿易を一切禁止する鎖国体制を即座に完成させた。 | 2. 海外渡航を許可する朱印状を商人に与えるとともに、新たに来航したオランダ人やイギリス人との貿易を許可した。 | 3. キリスト教の伝来を機に、宣教師を通じてヨーロッパの最新技術を導入し、銀の輸出を停止させた。 | 4. 日明貿易を復活させるために、室町幕府が用いていた勘合を再び発行して倭寇の取り締まりを強化した。 |
|--|---|--|--|
- 問11 江戸時代の田沼意次による政治改革において、商工業者の組織である「株仲間」を奨励・公認した主な目的として最も適切な説明を次の中から選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 商人に独占的な営業権を与えて保護する代わりに、彼らから税を徴収して幕府の財政収入を増やすため。 | 2. 外国との貿易を制限し、金や銀が海外へ流出するのを防ぐために、特定の商人だけに貿易を許可するため。 | 3. 物価の高騰を抑えるために、商人の独占による流通の滞りを解消し、自由な商売を促進させるため。 | 4. 農村から都市へ流入した人口を元の農村へ戻し、農業生産を回復させて年貢収入を安定させるため。 |
|--|---|--|--|
- 問12 江戸幕府の税制度について説明した資料において、老中の田沼意次が商工業者の組織である「株仲間」を積極的に奨励した目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 物価の高騰を抑えるために、商人間での自由な競争を促して商品の流通量を増やすため | 2. 商工業者に独占的な営業権を与える見返りとして、運上や冥加などの税を納めさせ、幕府の収入を増やすため | 3. 海外との貿易を完全に禁止し、国内の商工業者だけで自給自足の経済体制を築くため | 4. 農村から都市へ流出した人口を制限し、年貢の徴収元である農村の再建を優先するため |
|--|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 幕府の政治が安定し、農業や商業の発展によって上方（京都・大阪）の町人が経済力をつけたこと	元禄文化は、兵農分離や新田開発によって社会が安定し、物流の拠点である上方で経済活動が活発化したことを背景にしています。経済的な実力を持った町人が、武士の形式ばった文化ではなく、自分たちの感情や生活を肯定する華やかで躍動感のある文化を創り出しました。
問2	答え 4 運上・冥加	田沼意次は、農業中心の財政再建には限界があると考え、商業の力を利用して幕府の財政を立て直そうとしました。商人に「株仲間」という組合を結成させ、営業の独占権を与える見返りとして「運上（うんじょう）」や「冥加（みょうが）」と呼ばれる税を徴収しました。これにより、幕府は安定した現金収入を得ることを目指しました。
問3	答え 1 遠隔地の漁村で加工された干鰯などの金肥を、都市の商人を通じて購入し投入したこと。	商品作物の栽培は高い利益を生む一方、土地の養分を激しく消耗するため、大量の肥料を必要としました。この需要に応えたのが、干鰯に代表される「金肥」の流通です。漁村での加工、都市商人による流通、そして農村での購入という一連の経済サイクルが確立したことで、近畿地方などの先進地域では大規模な商品作物の生産が可能となりました。
問4	答え 1 商品作物	幕藩体制が安定し、都市の人口が増加した江戸時代中期以降、農村では販売を目的とした農作物の栽培が広がりました。これを商品作物と呼び、農民がこれらを売って現金を得るようになったことで、農村にも貨幣経済が浸透しました。代表的なものに、衣類の原料となる綿や、灯火の油の原料となる菜種などがあります。
問5	答え 3 農民の没落を防ぎ、幕府の主たる収入源である年貢を安定して確保するため	江戸幕府の財政は、農民が納める米（年貢）に大きく依存していました。もし農民が生活に困窮して土地を手放したり、換金性の高い商品作物の栽培にばかり偏ったりすると、幕府にとって最も重要な収入源である年貢の納入が不安定になる恐れがありました。そのため、農民の経営基盤である土地を維持させ、確実に年貢を徴収し続けることを目的として、一連の農業制限策が実施されました。
問6	答え 1 安房の有力武士である千葉氏や上総氏らの支持を得て勢力を立て直し、再び関東へ進出して鎌倉を本拠地とした。	源頼朝は安房国へ逃れた後、現在の千葉県を本拠としていた千葉常胤や上総広常といった有力な武士団を味方につけることに成功しました。この房総半島での軍勢の立て直しが、その後の鎌倉入りや平氏打倒、ひいては鎌倉幕府の成立へとつながる決定的な転換点となりました。
問7	答え 2 商人は生活必需品を供給する代わりに、肥料や食料となる海産物を入手し、それを日本各地の市場で販売することで全国的な物流を支えた。	松前藩の交易体制（商場知行制から場所請負制への変化を含む）のもとで、商人はアイヌの人々が必要とする米や衣類、鉄鍋などの日用品を届けました。対価として得た海産物は、人口が増加していた江戸や大坂などの都市部での食料や、商品作物の栽培に欠かせない金肥（肥料）として全国へ流通しました。このように、蝦夷地の交易は当時の日本全体の経済活動と密接に結びついていました。
問8	答え 2 先端が数本の刃に分かれた備中ぐわが普及し、従来の鍬よりも土を深く耕すことが可能になった。	江戸時代には農具の改良が進み、生産力が向上しました。備中ぐわは、刃が数本に分かれているため土の抵抗が少なく、硬い土地でも深く耕すことができたため、新田開発（開墾）などに大きく貢献しました。千歯こきは脱穀のための道具であり、踏み車は灌漑（水やり）のための道具であるため、それぞれの説明は誤りです。
問9	答え 2 リンカン	第16代大統領であり、奴隷解放宣言を出した人物としても重要である。誤答のワシントンは独立戦争を指導した初代大統領、ルーズベルトは世界恐慌時にニューディール政策を行った大統領である。
問10	答え 2 海外渡航を許可する朱印状を商人に与えるとともに、新たに来航したオランダ人やイギリス人との貿易を許可した。	徳川家康は、豊臣秀吉による出兵で悪化した東アジア諸国との関係修復を試みる一方で、朱印状を発行して東南アジア貿易を奨励しました。また、1600年に漂着したリーフデ号の乗組員を外顧問として採用し、それまでのスペイン・ポルトガルだけでなく、新興のオランダやイギリスとも貿易を開始するなど、実利を重視した多角的な外交を行いました。
問11	答え 1 商人に独占的な営業権を与えて保護する代わりに、彼らから税を徴収して幕府の財政収入を増やすため。	田沼意次は、重商主義的な政策をとり、商業の活性化を通じて幕府の収入を増やそうと考えました。具体的には、それまで幕府が警戒していた商人の独占組織である株仲間を積極的に認め、その特権を保障する代わりに、運上金・冥加金という形で現金を納めさせました。これは、後に天保の改革において、物価上昇の原因が株仲間の独占にあるとして解散を命じた水野忠邦の政策とは対照的なアプローチです。
問12	答え 2 商工業者に独占的な営業権を与える見返りとして、運上や冥加などの税を納めさせ、幕府の収入を増やすため	田沼意次は、それまでの年貢（米）に依存した財政から、商業の活力を利用した財政への転換を図りました。特定の商工業者に「株仲間」を組織させて独占販売などの特権を与える代わりに、運上（うんじょう）や冥加（みょうが）と呼ばれる営業税を納めさせることで、幕府の新たな財源を確保しようとしたのが主な目的です。